第３次伊勢崎市総合計画策定のための地区別市政懇談会　議事要旨

日時	令和６年５月２日（木）１８時００分～１９時００分
場所	ナルセグループ伊勢崎市民プラザ　ホール
参加者数	１１９人
市側出席者	臂市長、藤原副市長、下城副市長、三好教育長、小林病院事業管理者 新井総務部長、星野企画部長、丸橋財政部長、細井市民部長、 深澤環境部長、高柳健康推進部長、石橋福祉こども部長、 清水長寿社会部長、定形産業経済部長、田中農政部長、大橋建設部長、 山田都市計画部長、高木公営事業部長、柳澤上下水道局長、矢内消防長、 小此木経営企画部長、大森会計管理者、櫻井議会事務局長、 下城監査委員事務局長、小林教育部長
次第	①　開会 ②　出席者紹介 　・特別職の紹介 　・部長職の紹介 ③　市長あいさつ・説明　※スライドを使用しての説明 　・第３次伊勢崎市総合計画の策定について 　　ア　策定スケジュール 　　イ　市民参画の経緯 　　　・市民アンケート結果のトピックス 　　　・市長懇話会の結果　など 　　ウ　長期ビジョン（基本構想）（案） 　　エ　地区別計画のイメージ ④　まちづくりへの提案、意見の聴き取り ⑤　閉会

①　開会

（省略）

②　出席者紹介

（省略）

③　市長あいさつ・説明

（省略）

④　まちづくりへの提案、意見の聴き取り（要旨）

◆南部産業団地について、地域のまつり等の若者のまちづくり参画について、文化財を生かしたまちづくりについて

【提案、意見】

私は、民間の立場で伊勢崎市を盛り上げる取組を行っている。

伊勢崎南部工業団地について、国領町の造成を行っているところであるが、長沼町の工業団地については、今一歩進んでいない。伊勢崎地区南部の強みは工業団地だと思う。他県にないような工業団地を作れるとよいのではないか。

現在、国領町や長沼町の工業団地は散歩する場所となっている。新たな工業団地には、散歩ができる、緑があるといった憩いの場となるような場所を作っていただきたい。

将来に向けては、みんながわくわくするような取組が重要だと思う。特に子どもと女性が重要である。取組の一例として、祭があると思うが、祭は地域再生機能を持っている。太田市の木崎には、木崎音頭というものがあり、木崎音頭の祭を復活させようという取組がある。若者たちは、地域の祭をやりたいと思っているはず。東京などに出ていっても、伊勢崎に戻ってきたいという思いを若者がもてるような取組が必要。

また、伊勢崎市は埴輪が素晴らしい。現在、市では市史編纂を行っていると思うが、先人たちがどのような想いでまちづくりをしてきたのか、そういったことも大事にしながら共にまちづくりに取り組んでいきたい。

【回答】（市長）

伊勢崎市は、農業、商業、工業がそれぞれ盛んな地域ある。それぞれを伸ばしていくことが重要である。そのためにも、産業団地がこれからもまだまだ必要であり、企業局の力を借りながら実現していきたい。道路や住環境への配慮、環境整備も必要である。雇用の問題もあるため、伊勢崎市で働いていただけるよう、住居の面でも環境を整えていかなければならない。

若者たちは、にぎわいあるまちを望んでいるので、これに答えられるようなまちづくりをしていかなければならない。子どもたちが生まれ育ち、仕事をしてといったような循環を伊勢崎市の中で続けていただけいるようなまちづくりをしなければならない。

先日、人口戦略会議において発表された消滅可能都市とならないよう、他の市町村と連携しながら取り組んでいきたい。そういったときに地域の持っている歴史が重要になってくると思う。現在、市史編纂を始めているが、地域の歴史について、市民の皆さんに理解していただき、シビックプライドの醸成に繋げていきたい。

◆公立幼稚園について

【提案、意見】

伊勢崎市には、いくつかの公立幼稚園がある。豊受幼稚園が閉園となり、しばらく経つが、その跡地は整備されておらず荒れている。今年３月末で南幼稚園と茂呂幼稚園が閉園となってしまった。過去２年間、入園希望がないため、休園状態であったが、閉園となってしまい、跡地はほとんど整備されていない。

近所の小さな子どもが遊ぼうと思っても、遊具や水道の管理もされておらず、遊ぶことができない。幼稚園がそのまま存続されることが一番良いが、閉園となってしまった。

近年、国でも少子化対策が重要視されている。市では、５名以上の募集がない場合は廃

園となるとしているが、休園や廃園の危機にある幼稚園を守っていただきたい。
特に茂呂幼稚園については、地域の緊急避難場所ともなっている。いざという時に、施設が使えるように管理して欲しい。
茂呂幼稚園は７５年の歴史がある。当時、地域のためにという思いで土地を手放した方がいたはず。より住みやすいまちづくりの観点からも、閉園となってしまった幼稚園の再開を望む。

【回答】（教育部長）

茂呂幼稚園は、児童が集まらず閉園とした。建物については、７０年以上経過しており、耐震性能の問題もあり、このまま建物を使用することは難しい状況である。教育財産としての活用を検討したが、用途がなく、現在は、市全体として活用を検討している。

【回答】（教育長）

公立幼稚園の入園希望が少ない背景には、ニーズの変化があると思われる。公立幼稚園は、幼稚園教育要領に則った教育機関であるが、現在は保育園のような長時間保育と教育の両面のニーズがあるため、幼稚園教育へのニーズが相対的に減少したと考えられる。
市全体で考えた場合には、民間及び公立の幼稚園、保育園やこども園が選べる中で、公立幼稚園を選んでいただけるよう努力してきたが、茂呂幼稚園については、建物の老朽化なども考慮した結果、やむなく閉園ということになってしまった。
今後どのように活用していくかについては、教育としての用途だけでなく、市全体での活用を検討しているところである。同じく閉園となった豊受幼稚園については、不登校児童等の居場所、学習の機会を確保する教育支援センターとして活用を始めた。
公立幼稚園へのニーズがなくなったわけではなく、幼稚園教育への期待があるなかで、幼稚園教育の充実を図り、全体のバランスも考えながら、今後のあり方を検討していきたい。

【回答】（市長）

施設が避難所になっている点、地権者の想いがあるといった背景の重さは考えていきたいが、施設の統合も合併の大きな目的である。
現在、新保健センターを建設しており、赤堀、東、境、旧伊勢崎にある保健センターの機能を一か所に集約する。他の施設についても同様の取組が必要である。地元から施設がなくなるということも生じると思うが、伊勢崎市が持続可能であるために、それぞれの施設のあり方を検討する必要がある。
教育の保証はしっかりと行っていくが、残された施設をどのように活用していくかを検討し、活用できない場合には整理するということが、これからはさらに増えていく。
こういった取組は、やっていかなければならないことであり、第３次伊勢崎市総合計画の中でも謳っていかなければならないが、施設の廃止をする際などには市民の皆様には丁寧な説明をしていきたい。

<u>◆中心市街地のまちづくりについて</u>

【提案、意見】

北小学校ができた際には、全国から視察が来た。素晴らしい設計士の方に関わっていただいたが、学校の先生にも加わってもらい、現場の声を聴いたうえで今の北小学校ができた。

建物も地域の魅力の一つである。気持ちがわくわく、どきどきするような美しい建物が必要である。地元の企業等を優先するのではなく、素晴らしい美意識を持った専門家に依頼して、地域の美しさを作っていくことが重要である。

私は、県外から嫁いできたが、伊勢崎市は美しいまちである。華蔵寺公園があり、とてもいいところに来たと思っている。若者は、美しくないものには関心を持たない。美しいまち、洗練されたまちづくりのため、妥協せずに取り組んでいただきたい。

【回答】（市長）

現在、様々な方が中心市街地に関心を持っていただいており、設計に関わってもらうことができる機会を作っている。何故駅の周辺ばかりと言われることもあるが、駅周辺は、伊勢崎の顔となる場所である。にぎわいを創出するには、ばらばらではなく、にぎわいを創出するためのまとまった空間が必要である。中心市街地にコストをかけて整備しているところで、ここにハードの面だけでなく、ソフトの部分も取り入れるため、関係団体の皆様に協力していただきながら取り組んでいる。こういった取り組みを続けていくことが重要であり、今後も様々な考えを取り入れて取り組んでいきたい。

<u>◆信越化学工業の誘致に伴う市内の大学と就職の関係について</u>

【提案、意見】

現在、前橋市に住んでいるが、伊勢崎市に引っ越す予定であり参加した。

信越化学工業が伊勢崎市に誘致されるということで雇用が生まれ素晴らしいと思う。

しかし、伊勢崎市にある大学は、上武大学（スポーツ、看護等）、東京福祉大学（教育、心理学）であり、半導体メーカーである信越化学工業とは、学問の内容について一致しない。そのため、Ｕターンの誘致や雇用などについての対策は検討しているのか伺いたい。

【回答】（市長）

伊勢崎市には、上武大学と東京福祉大学の二つの大学がある。大学が２つあるということは強みであり、しっかりと生かしていくことがこれからも必要であると考えている。

理系の大学がないという点については、市内だけでなく、群馬県全体でみれば前橋工科大学や群馬大学などもあり、市内のみで考えずに、広範囲で連携をとって取り組む必要があると考えている。

信越化学工業のみでなく、他にも伊勢崎で操業していただいている優良企業がある。また、農業も含めて雇用が大きな問題となっているので、工業のみでなく、全体的に雇用の確保に取り組んでいきたい。

大学生など、若者がにぎわいを欲しがっている中で、まちなかに集まれることができる場所が必要であると考えている。これまでも上武大学や東京福祉大学と連携してきたが、他の大学とも連携をしていきたい。また、大学のみでなく高等学校とも連携を取っていきたい。

伊勢崎市から出ていった若者に、戻ってきてもらえるような取組も重要と考えている。

６　閉会

（省略）